

令和6年度第4回松江市公共交通利用促進市民会議 委員意見概要

・開始日時：2024年10月28日（月）10:00～12:00

・議事

(1) 公共交通で暮らしやすい未来を実現するPTの中間報告【事務局】

(2) 利用促進の取組み報告

①島根スサノオマジック・交通事業者との公共交通利用促進にかかる連携【JR西日本】

②バスまつり・小学生無料乗車イベント【一畑バス】

③一畑電車の体験運転事業について【一畑電車】

④松江Good Morning Project【松江国道事務所】

(3)人材確保の取組み報告

①中山間地域をはじめとした島根の生活交通を考えるPTの取組み【島根県】

②10/1 施行 タクシーハンマー人材確保対策事業【事務局】

③11/23 開催 運転体験会・就業説明フェア【事務局】

(4)公共交通の利用促進に関する条例【事務局】

(5)意見交換

・「松江市一斉ノーマイカーウィーク」の再開【連合島根】

・1日バス乗り放題企画＜全路線一日乗り放題パス＞【連合島根】

・「走行環境改善部会」の再設置など【松江市交通局】

<委員発言要旨>

(交通局須山局長)

- ・松江国道事務所の「Good Morning Project」はバス事業者にとって非常に助かる取組み。バスの需要も朝の7:45～8:15に集中しており、これが分散すると、運転士不足対策にとっても効果的。
- ・今後、乗り継ぎ拠点を考えるうえでは定時制の確保が必要となっており、その意味でも渋滞対策が重要となってくる。

(加藤会長)

- ・渋滞は、経済損失や環境対策にも関係してくる。
- ・Good Morning Projectについて、学生との関係についても詳しく教えてほしい。
→リクルートに注目した。学生からすると、時差出勤が可能な企業は魅力的に見える。
こういった観点で学生と企業の意見交換の場を設け、企業の時差出勤導入促進を進めている。

(連合島根丸山執行委員)

- ・担い手確保の取組みに対してお礼申し上げる。今後も継続した取組みをお願いしたい。
- ・県のPTの取りまとめに「職場環境の改善」とあるが、そのとおりだと思う。

- ・業界の魅力を発信いただいているが、入ってから「何か違うぞ」とならないよう、給与水準等、労働環境の改善ため、労働者の立場からも働きかけていきたい。

(加藤会長)

- ・運転士も運転だけでなく、企画などクリエイティブな仕事ができれば魅力が増えると感じる。
- ・条例制定については、どのようなプロセスを踏んでいくか？

→まずは目の前の課題である交通体系の整理を進める。その議論の中で、各主体の責務など条例の中身と被る部分も出てくる。本日の議論も含め、関係者の中で制定の必要性について共通認識が生まれた場合は、PTの取りまとめを反映し、市民会議などで意見を伺いながら来年度中に制定できればと考えている。

(連合島根丸山執行委員)

- ・市民会議への意見の意図としては、今までやってきたことを一度見直そうという思いから。一番重要なのは公共交通を利用していくこと。
- ・明るい話題がなかなか無いなかで、市民の皆様に公共交通の必要性を理解いただく活動としたい。
- ・岡山では、路線バス・路面電車の「無料デー」がある。多くの利用があり、満員状態が生まれ、そういう際の対応ということで事業者側も勉強になることがある。

(高齢者クラブ犬山副会長)

- ・PTの中間とりまとめの基本方針、「現行公共交通網の維持」を聞き安心した。
- ・高齢者の運転は悪者扱いされがちだが、車がないとやっていけない。
- ・車を持たない高齢者にとって公共交通は移動のセーフティネット。

(身障者福祉協会広野会長)

- ・身障者にとっても公共交通は必要。ぜひ維持していただきたい。
- ・大都市と違って、交通事業者だけで事業を継続していくのは無理。公的な負担が必要。条例制定は議会、市民を巻き込んで公共交通の重要性を周知できる良い機会。

(鹿島タクシー物部社長)

・鹿島町のバス停は草だらけのところがある。そういう待合環境をきれいにすることも利用促進につながっていくと思う。
→郊外のバス停は整備が追いついていないのが現状。

(加藤会長)

- ・米子市では期間限定でバスの運賃無料化を実施。他自治体では選挙に行く方への運賃無料の取組みをおこなっている。
- ・年度末年度初めの行政手続きの繁忙時期に、駐車場対策と合わせて公共交通利用促進を図ってはどうか。

(交通局須山局長)

- ・利用者は朝に集中して昼間の利用が少ない。コロナ禍から利用者は9割戻ってきたが、高齢者の利用が戻ってきていない。高齢者の皆様の昼間の利用をお願いしたい。

(三宅副会長（公民館長会 会長）)

- ・Good Morning Projectは良い取組み。公共交通が信頼・頼りにしてもらえるのは定時性であり、それを担保するのは混雑解消。
- ・時差出勤を進めるなかで旗振り役は行政。首長が先頭に立って呼びかける姿勢が必要。
- ・一畠グループがストライキしていた時期があり、特に一畠電車沿線では通常に比べかなりの渋滞が発生していた。裏返すとそれだけ公共交通が渋滞緩和に貢献しているということ。
- ・行政が本気で時差出勤に取り組めば、企業もついてくる。
行政のトップは訴求力があるので、首長が先頭に立って実施を。
- ・条例制定については、条例の中で各役割を明記し実行性を伴うものにされたい。
- ・10/1からのコミュニティバス（AI デマンドバス）の状況は？
→10/1から、八雲・忌部地区と宍道地区でAI デマンドバスの運行を開始した。八雲・忌部は定時定路線との併用。運行開始1週間に限って言うと、利用状況は対前年同時期と比べ減っている。